



西中学校教員による小学生体験入学

年次別研究内容

年次	実践研究内容等
1年次 (平成16年度)	<ol style="list-style-type: none"> 1 担当者の役割の明確化、校務分掌上の位置づけ 2 相互の授業参観や授業参加、協議会を通して学習・生活指導上の課題の把握及び共通理解 3 小・中学校における学力に関する課題及び指導上の課題の確認 4 「確かな学力」を育成するための指導の重点及び授業改善に向けた計画の作成
2年次 (平成17年度)	<ol style="list-style-type: none"> 1 指導の重点及び授業改善に向けた計画に基づく授業の実践 2 小・中学校教員による交換授業・チームティーチングを実施 3 9年間を見通した学習活動を展開するため、学習内容の継続性や系統性の確認 4 児童・生徒の発達段階に応じた指導内容・指導方法の改善

研究協力校

学校名	教員数	児童・生徒数	学校の特色及び研究歴
第九小学校	25名	572名	平成15年度より、「一人ひとりを大切にしたい指導法の工夫」をねらいに習熟度別の少人数学習集団での指導を算数科を通して研究してきた。平成16年度より西中学校学区にある本校に隣接した小学校を統合し、保護者・地域の期待に応える学校づくりをめざした様々な施策の中の一つとして、小中連携を試行してきた。
西中学校	23名	412名	自主研究として、平成13年度から幼稚園・小学校との交流を実践している。平成15年度は校内授業研究を通して評価方法の研修や、小学校への出前授業(国語・数学・英語)を実施し、小学校との交流が活発化してきている。

新年、明けましておめでとうございます。これからの世界にははたたく子どもたちを育成するため、本年も市民の皆さんにはなお一層のお力添えを賜りますようお願いいたします。

新学習指導要領が全面実施されてから三年が過ぎようとする中で、各学校では、特色ある取り組みが積極的に進められています。私も教育委員会では、「確かな学力」と「豊かな心」を育てることをねらいとして、



教育委員長 岡本 健之

学びの充実

子どもたち一人ひとりに新しい時代を生き抜く力を育てるため、極めて大切であり、市民の皆さまの期待に応えることになると考えます。

「確かな学力」を育てることが、子どもたちに基礎・基本を徹底し、個性を伸ばすことにより実現していくと考えます。そのためには、少人数指導や習熟度別指導など個に応じたきめ細かな指導を充実するなど、授業の改善を推進してまいります。

また、「豊かな心」の育

成には、基本的な規範意識と倫理観、公共心や他者を思いやる心など豊かな人間性や社会性を育てることが重要です。そのためには、家庭や地域の教育力の向上、道徳教育の充実、奉仕・体験活動の推進を図ります。

さらに、「信頼される学校づくり」を進めるために、各学校の学校評価や教員研修の充実を図ります。特に、子どもたちの日々の学習や生活を預かる教員において、教えるプロとしての誇りと自覚をもつよう育成してまいります。

東久留米市の子どもたちが学ぶ楽しさや喜びを味わい、安全に安心して学校に通うことができるよう、私たちも教育を担う者として精一杯努めさせていただきます。

研究主題

小・中連携研究推進委員会では、9年間の義務教育を小学校6年間、中学校3年間を別のものとしてではなく、小・中学校を連続した9年間として捉えることで、より効果的に「確かな学力」の育成を図ることができると考えています。

そのためには、小・中学校がこれまで独自に行ってきた教育活動を分析し、児童・生徒のつまずきや不安等を解消し、「確かな学力」を育成するにはどのような活動が効果的なのか、検討・試行・検証することが必要であると考えています。

本委員会では、両校の委員で構成される研究組織を立ち上げ、より効果的な小・中学校連携のあり方を探ります。

事業内容

研究年次を、1年次(16年度)と2年次(17年度)に分けて研究を進めています。

初年度である16年は、準備委員会を立ち上げ、3月29日(月)から8月25日(水)まで計9回にわたり、相互交流の打ち合わせ、実施計画書の提出、分科会の決定等について検討が進められてきました。また、16年9月には研究事業計画(案)が提示され、各分科会の所属を決定し、全体会を経て各分科会が開催されています。

今後は、中間報告書を17年2月末までに、また最終報告書を18年2月末までに東京都教育委員会に提出することになっています。

研究組織(平成16年度現在)

分科会名	活動内容	委員
学習指導分科会	・9年間を見通した指導計画 ・TTや少人数指導の工夫 ・教材開発 ・「総合的な学習の時間」の工夫(英語活動・情報教育)	小6人 中6人
生活指導分科会	・基本的生活習慣の段階的指導の計画 ・中学校入学段階までに身につけるべきことからの明確化 ・組織的な生活指導のあり方	小5人 中4人
児童・生徒交流分科会	・新入生受け入れ事業(体験入学等)の工夫 ・児童・生徒の相互交流(部活動等の交流事業や行事への参加)の推進	小4人 中6人
保護者・地域分科会	・小中相互の情報発信のあり方 ・保護者や地域の人材活用の工夫(学校図書館の活用・読書指導の充実等) ・小中のPTAと学校の相互連携の工夫	小5人 中4人

卒業式および入学式における国旗掲揚・国歌斉唱の完全実施を皮切りに次々に改革をなしている最中であり、昨年度来

「週の指導計画」を公文書と位置付け、適正な管理と管理職の指導による改善を目的とし、教育課程の適正な管理に向けて効果をあげているところです。

また、市のサポート事業の一つとして、生活指導相談員を派遣し、児童・生徒への個別指導の充実を目指してまいります。そのほか、少人数指導及び情報教育の充実を目指し、派遣事業を展開しており、その成果が着実に実っております。

学校においては、ゆとりの中で子どもたちに豊かな人間性や自ら学び、考える

力をはぐくむことを目指し、個性を尊重した教育を進めていく必要があります。そのためには、すべての学校が地域や子どもの実態に応じて工夫を凝らした教育活動を進め、保護者をはじめとした地域住民の方々と地域全体として子育てを支援し、子どもの成長を支えていく取り組みを展開することが必要です。

現在、心の教育の充実、個性を伸ばし多様な選択ができる学校制度の実現などの視点から教育改革が進められていますが、その成否は各学校と地域が、実施にどのような取り組みを行うかにかかっています。

市民の皆さんの英知と参画を得て、新しい学校づくり、地域づくりの条件整備に努めて参りたいと考えています。今後とも皆さんの一層のご協力とご支援をお願いいたします。

研究主題

きた教育活動を分析し、児童・生徒のつまずきや不安等を解消し、「確かな学力」を育成するにはどのような活動が効果的なのか、検討・試行・検証することが必要であると考えています。

本委員会では、両校の委員で構成される研究組織を立ち上げ、より効果的な小・中学校連携のあり方を探ります。

事業内容

研究年次を、1年次(16年度)と2年次(17年度)に分けて研究を進めています。

初年度である16年は、準備委員会を立ち上げ、3月29日(月)から8月25日(水)まで計9回にわたり、相互交流の打ち合わせ、実施計画書の提出、分科会の決定等について検討が進められてきました。また、16年9月には研究事業計画(案)が提示され、各分科会の所属を決定し、全体会を経て各分科会が開催されています。

今後は、中間報告書を17年2月末までに、また最終報告書を18年2月末までに東京都教育委員会に提出することになっています。

研究組織(平成16年度現在)

分科会名	活動内容	委員
学習指導分科会	・9年間を見通した指導計画 ・TTや少人数指導の工夫 ・教材開発 ・「総合的な学習の時間」の工夫(英語活動・情報教育)	小6人 中6人
生活指導分科会	・基本的生活習慣の段階的指導の計画 ・中学校入学段階までに身につけるべきことからの明確化 ・組織的な生活指導のあり方	小5人 中4人
児童・生徒交流分科会	・新入生受け入れ事業(体験入学等)の工夫 ・児童・生徒の相互交流(部活動等の交流事業や行事への参加)の推進	小4人 中6人
保護者・地域分科会	・小中相互の情報発信のあり方 ・保護者や地域の人材活用の工夫(学校図書館の活用・読書指導の充実等) ・小中のPTAと学校の相互連携の工夫	小5人 中4人

謹んで新春のお喜びを申し上げます。地域における教育、文化、スポーツの振興を担う教育委員会の制度ができて五十余年が過ぎました。今、活力ある社会を築き、市民の皆さんの多様な要請に応え、地域の特性を生かした教育を推進していくためには教育委員会が一層、主体的な行政を展開していく必要があります。

さて、本市においては、卒業式および入学式における国旗掲揚・国歌斉唱の完全実施を皮切りに次々に改革をなしている最中であり、昨年度来

「週の指導計画」を公文書と位置付け、適正な管理と管理職の指導による改善を目的とし、教育課程の適正な管理に向けて効果をあげているところです。

また、市のサポート事業の一つとして、生活指導相談員を派遣し、児童・生徒への個別指導の充実を目指してまいります。そのほか、少人数指導及び情報教育の充実を目指し、派遣事業を展開しており、その成果が着実に実っております。

学校においては、ゆとりの中で子どもたちに豊かな人間性や自ら学び、考える

力をはぐくむことを目指し、個性を尊重した教育を進めていく必要があります。そのためには、すべての学校が地域や子どもの実態に応じて工夫を凝らした教育活動を進め、保護者をはじめとした地域住民の方々と地域全体として子育てを支援し、子どもの成長を支えていく取り組みを展開することが必要です。

現在、心の教育の充実、個性を伸ばし多様な選択ができる学校制度の実現などの視点から教育改革が進められていますが、その成否は各学校と地域が、実施にどのような取り組みを行うかにかかっています。

市民の皆さんの英知と参画を得て、新しい学校づくり、地域づくりの条件整備に努めて参りたいと考えています。今後とも皆さんの一層のご協力とご支援をお願いいたします。

「生きる力」をはぐくむ小・中連携教育の実践にむけて

平成16・17年度小・中学校連携教育実践研究事業

第九小学校・西中学校

豊かな人間性を育む

教育委員長 熊谷 康

力をはぐくむことを目指し、個性を尊重した教育を進めていく必要があります。そのためには、すべての学校が地域や子どもの実態に応じて工夫を凝らした教育活動を進め、保護者をはじめとした地域住民の方々と地域全体として子育てを支援し、子どもの成長を支えていく取り組みを展開することが必要です。

現在、心の教育の充実、個性を伸ばし多様な選択ができる学校制度の実現などの視点から教育改革が進められていますが、その成否は各学校と地域が、実施にどのような取り組みを行うかにかかっています。

市民の皆さんの英知と参画を得て、新しい学校づくり、地域づくりの条件整備に努めて参りたいと考えています。今後とも皆さんの一層のご協力とご支援をお願いいたします。